

# クイックスタートガイド

日本語



サポート・販売:

VERBI ソフトウエア・コンサルティング・ソーシャルリサーチ GmbH、ベルリン、ドイツ

http://www.maxqda.com/lang/jp

全ての権利、とりわけ複写と配布、および翻訳に関する権利は保護されています。本資料のどの部 分も書面による許可を得ることなしに複製すること、または電子システムを利用して変更や再製、配 布することは、いかなる形式(複写、マイクロフィルム、または他の方法)によっても禁じられています。

MAXQDA is a registered trademark of VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH, Berlin/Germany; Mac is a registered trademark of Apple Computer, Inc. in the United States and/or other countries; Microsoft Windows, Word, Excel, and PowerPoint are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries; SPSS is a registered trademark of IBM Corporation in the United States and/or other countries; Stata is a registered trademark of Stata Corp LLC. in the United States and/or other countries.

All other trademarks or registered trademarks are the property of their respective owners, and may be registered in the United States and/or other jurisdictions.

© VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH、ベルリン、2017 年

はじめに	7
MAXQDA ユーザインターフェース	9
プログラムスタート	9
ユーザインターフェース	
データの保存と保存場所に関する注意	12
重要なキーワード	14
データをインポートして検討する	
データをインポートする	15
データについて検討する	16
データを検索する	19
色彩コーディングとメモ	
データをコーディングする	
データのセグメントをコーディングする	22
データを分析する	
文書をアクティブ化する	
同一のコードでコード付セグメントを読み出す	27
図解ツールを活用する	
混合研究法による分析を実行する	
文書変数を定義する	
変数値を入力する	

コードの頻度を変数に変換する	32
分析における文書変数	33
またお会いしましょう	34
参考文献	35
メモ	36

# はじめに

今日、マニュアルどころか、スタートガイドさえじっくり読む人はあまりいません。そのため、このクイッ クスタートガイドはできるだけ簡略に書かれています。あなたが分析作業を始め、MAXQDA を体験しつ つ、スタートの第一歩から自由に楽しくプログラムを使いこなすことができるようになっています。社会調 査のデータ分析やその多様なアプローチと研究法については、このガイドではほとんど言及されていま

せん。それらについては他のソー スから情報を得ることが可能です (このガイドの終章の参考文献が お役に立つことでしょう)。質的研 究には無数の方法があります。で もその大部分は MAXQDA によっ て成果を挙げることが可能です。 アプローチがどれほど異なるにし ても、その方法には様々のアプロ ーチに適応する基本構造がありま す。この「作業セット」の基本構造 は次のような要素からなります。

質的分析のアプローチの作業の 大部分は、何らかのカテゴリーを 用いてなされます。カテゴリーは直 接、素材のデータで設定される か、または既存の理論に基づいた



最新の研究資料や各自の前作業によって、具体的なデータに頼ることなくいわば演繹的に定義されま す。カテゴリーは大体、コードやキーワード、または見出し語と呼ばれます。 その名称に関わらず、カテゴリーの機能は常に同じです。コードは素材のデータを分類しシステム化し ます。コードはしばしばデータを「理論的」に集約し、分析的コードとしての意味を持ちます。分析的コー ドは分析作業の結果としてテーマを定義すること以上の意味を持ちます。MAXQDA ではそれらを *コード* と称し、このガイドでもそれに従っています。データのコーディングは時間が掛かることもありますが、心 配無用です。MAXQDA でデータを分析する場合、コーディングすることやコードで作業することは必ずし も必要ではありません。質的データ分析ソフトはデータの組織化のためのみに使うことも可能です。ま たは語彙や単語の組み合わせの検索のみに使うことも可能です。またコードを定義する必要なくそのよ うな*ヒット*を自動的にコーディングするなど、その他多くの可能性があります。

# MAXQDA ユーザインターフェース

### プログラムスタート

MAXQDA をスタートすると、ユーザ名、またはユーザ略称を入力するウィンドウが表示されます(略称 は後に続く作業にとって便利です)。最初の MAXQDA プロジェクトを作成するには、[新規のプロジェクト ]をクリックし、プロジェクトに任意のファイル名を入力してから、このファイルを保存する場所を選んでく ださい。



MAXQDA 2018 のプロジェクトファイルには MX18 の拡張子が付きます。Windows Explorer ではファ イルは MAXQDA 2018 Project として示されます。

Excel がワークシートで、SPSS がシステムファイル(SAV)で作業を行うように、MAXQDA はプロジェクトで作業します。プロジェクトにはあなたが MAXQDA にインポートして作成したコードやメモなど(殆ど)全てが保存されます。

スタート画面の右側には、MAXQDA オンラインマニュアルを開くオプション、MAXQDA ビデオチュート リアルを見るオプション、MAXQDA チームにフィードバックを送信するオプションなど、いくつかのリンク が用意されています。

## ユーザインターフェース

最初のプロジェクトを作成して保存することがうまくできたら、次のような MAXQDA の特徴的な画面構成が表示されます。その4つのウィンドウの大部分は(当然)まだ空白です。

ホーム インポート	コード 変	数 分析	混合研究法	図解ツール	レポート	Stats	MAXDictio					5 (2)	~ 0	• 7
新規のプロジェクト プロ:	ジェクトを開く マ	文書システム	- F97	デム 文書ブラウザ	検索済セグメ		■	2日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1日本 1	□ □ □	È ⊑ 1: ∋	外部ファイル			
📄 文書システム 🛛 📋 👘	🕞 🗉 🐻 🛙	5 🔎 🗗 🖬	×	文書ブラウザ								e 🖪	Q.	
12			#				ᅌ 🔶 🌔	6 🖉 🖉 🦉 🖉	2 2 0	<b>9</b>	6 G			
↓ セット			0 0											
									_					
	1								- 2	2				
🤕 コードシステム 🛛 🌾	🖻 🙂 📰 🤅	ο 🔎 🗗 🖬	× 🔅	検索済セグメント					III 🐺	🐅 📲 🕷	5 ¢ ¢o	🖶 🔀 🌍 🕒	P	
			• 9											
<ul> <li>ロードジステム</li> <li>回口一ドジステム</li> </ul>			0											
• 📜 セット			0											
	2													
	4													
0 0	<b>🔅</b> 0	<b>¢</b> a 0	ō 👘	<b>a</b> [	1	🕂 単純なコー	ディング・クエリ	(コードのOR組み合わt	±)					

MAXQDA は、シンプルな構成による基本コンセプトを持ちます。それは 4 つのメインのウィンドウから 構成されており、そのため分析作業を容易に進めることができます。図の左上の最初のウィンドウ 1 は [文書システム]、その下にある 2 は[コードシステム]、右上の 3 は[文書ブラウザ]、そして 4 が[検索済セ グメント]です。

これらの 4 つのウィンドウは MAXQDA の基本構成です。ウィンドウの配置を変えたり、左右を交換したり(左側の両方のウィンドウを右側に置く)、ウィンドウを 2 列ではなく 3 列に設置したりすることが出来ます。これは 16:9 の画面を使って作業する場合、とりわけ便利です。ウィンドウの設定は、メニューバーの[ホーム]タブの 4 つのシンボルで変更することが出来ます。

これらのタブ(一部のプログラムでは「リボン」と呼ばれることもあります)は、MAXQDA ウィンドウの上 部にあり、多くの MAXQDA 機能にアクセスできます。[ホーム]タブでは、4 つのウィンドウを一つずつ開 いたり閉じたりすることで、目的の作業に合わせて画面を配置することができます。また個々のウィンド ウをこの 4 ウィンドウ構成から切り離し(アンドック)、スクリーンの別の場所や第二のパソコン画面に移 動することもできます。ウィンドウを開閉するには、それぞれのウィンドウのボタンをクリックしたり、右上 隅の"x"をクリックして、開閉を操作してください。次の図例はメニュー[表示]のオプションで 4 つのウィン ドウがすべて開かれているのを示しています。クリックすることでウィンドウを簡単に閉じることができま す。さて、4 つのメインウィンドウに戻りましょう! 作業したい全てのファイルは[文書システム]ウィンドウ にインポートされます。コードとサブコードを使用する場合は、[コードシステム]ウィンドウで管理できま す。[文書ブラウザ]ではデータを表示および編集できます。[検索済セグメント]ウィンドウでは、コーディ ング作業の後に検索結果を表示することができます。

#### データの保存と保存場所に関する注意

MAXQDA は、インポート、コメント、または定義された全てのものを、プロジェクトファイルと呼ばれる一 つの単一のファイルで管理します。MAXQDA で保存されるのは 1 プロジェクト = 1 ファイルです。上述し たように MAXQDA 2018 ではこのプロジェクトファイルに MX18 の拡張子が付きます(古いバージョンで は MX12、または MX11 が付きます)。MAXQDA Exchange ファイルは、異なるプログラムバージョン間の データ交換を行うために使用される特別な種類のファイルです。

プロジェクトが常に安全であることを確認するために、以下のボックスをお読みください。注意: MAXQDA は、プログラムにインポートされるデータや、ユーザが作成するデータのすべてを自動 的に保存します。そのため、特別に[保存]する必要はありません。しかしながら[ホーム>プロジェ クトを保存する]で、外部記憶装置により定期的にデータのバックアップを保存することが重要で す。 プロジェクトファイルにはリサーチプロジェクト、学士論文、修士論文などの作成にあなたが必要とする すべてのデータが含まれます。ただし例外のない規則はないという原則がここでも通用します。あなた が多量の動画や音声データを使って作業する場合、MAXQDA プロジェクトファイルはいくつかのビデオ のインポート後には重くなり過ぎます。そのため MAXQDA の標準設定では音声・ビデオのデータ、およ びある一定の大きさ(5MB)以上の画像と PDF 文書がプロジェクトファイルに埋め込むことができないよう になっています。この初期設定を変更することはもちろん可能です。しかしその結果、プロジェクトファイ ルは場合によっては巨大なものになり、プロジェクトチーム内で容易に交換しあうことが難しくなります。

#### 重要なキーワード

まず MAXQDA での作業のために重要なキーワードを説明しましょう。

プロジェクトは MAXQDA のシステムデータ、つまりワークユニットです。それはテキスト、PDF、画像、表 などインポートされたすべてのデータと、あなたが作成したコード、メモ、コメントとコーディングとを含み ます。

文書は分析されるべき単位を指します。それらはインタビュー、フォーカスグループの記録、ビデオや音 声記録、専門雑誌の論文やその他からなります。

コードは最も重要な分析ツールです。それらはインタビューテキストの一部や写真の切り抜き、またはビ デオクリップなど、特にマークを付けるべきだと考えられる部分に割り当てられます。

コードシステム、またはコードツリーは、階層的に組織されるコードとサブコードの全体を指します。

コーディングするとは、素材のマーキングされたセグメントにコードを割り当てることをいいます。

コード付セグメントは、コードが割り当てられた素材のことです。

メモはあなた自身にとっての覚書です。ここにはアイデアが書き留められ、内容的な関連についての最初の推測や仮説が打ち立てられたり、次の作業過程につながる質問事項が書き留められたりします。

コメントはメモに比べて簡略で、特定のコード付セグメントに関して「ここは重要」、「矛盾!」や、また「非論 理的」などと短く書き込むことができます。

一覧表示は MAXQDA のさまざまな箇所で使われる表示です。例えばコーディングやメモ、変数やリンク などを一覧して示す際に使われます。MAXQDA の一覧表示はどれも構成が似ていて、その操作も同じ 要領で行われます。一覧表示を使えば MAXQDA の個々の要素にすばやくアクセスすることができ、大 量のデータの中で方向を見失うのを防ぐことができます。

# データをインポートして検討する

## データをインポートする

MAXQDA にデータをインポートするにはいくつかの方法があります。初めに文書システムのウィンドウ 内の構成を詳しく見てみましょう。



文書、またはその横のアイコンを右クリックすると広範なコンテキストメニューが表示されます。ここでは その真ん中の部分のみが表示されています。



コンテキストメニューの代わりに[インポート]タブメニューから[文書]を選択するか、またはもっと簡単に、 希望するファイルをマウスで Windows Explorer、または Mac Finder から文書システムウィンドウにドラッ グ&ドロップすることができます。[インポート]タブには様々な追加オプションがあります。例えば、スプ レッドシートの表、フォーカスグループのトランスクリプトなどの特別な種類のデータをインポートしたり、 または MAXQDA に直接テキストを入力したりすることができます。

さてフォルダを設定してもファイルを思い通りに整理することができなければコンピュータの意味があ りません。MAXQDA でもオプション[新規の文書グループ]によってこのように作業できます。ひとつの文 書グループのマウスの右クリックのオプションで[文書をインポートする]を選択すると、該当する文書は この文書グループにインポートされます。原則的には、文書を異なる文書グループ間でマウスで好きな ように移動させることが可能です。

#### データについて検討する

質的データ分析は、データについてあなた自身がよく知っていなければうまく行くものではありません。 文書システムの中のある文書をダブルクリックすると、文書はすぐに文書ブラウザで開かれます。次の 図例にあるインタビューの書き起こしはその一例です。

🚺 文書ブラウザ: 七海	🗙 📼 🔍 🚽 🖶 🎽 🕎 🍳 Q
	🗘 õ ¢ 🖕 🔦 🔌 🔦 🖉 🌾 õ
¢ 🗌	
持続可能な環境	めの経済的コストは GDP の 5% から 10% に達する可能性があります。最近の研究からは、エネルギーの問題
エネルギー 👌 持続可能な環境 👌	もですが、アフリカが様々な条件から気候変動による負の影響を受けやすいことが裏づけられています。開発
l	途上国、その中でもとくにもっとも貧しい国々は、経済部門の中でも気候の影響をもっとも強く受ける農業に
	依存している程度が大きいです。
不十分な保健ケアおよ	保健ケアが十分でないとか、クオリティの低い公共サービスという問題もあります。こういった状況の影響は
l	広範囲におよびます。例えば食糧不足とか干ばつは、飢えに繋がりますが、それだけではないです。飢えた家
	族は子どもを学校に通わせることができないかもしれないし、保健ケアを受ける経済的余裕もないかもしれま

MAXQDA では自動的に段落番号が付きます。段落番号は研究チーム内であるテキストについてディ スカッションしたり(例えば、「段落 14 の発言を見てご覧!」というようなやりとりを行うことができます)、段 落の全体をコーディングするのに便利です。図例ではテキストの横の欄に「持続可能な環境」と記入さ

#### データをインポートして検討する

れたラインが引かれていて、ポスト・イットのアイコンがあります。この縦線はコーディングストライプと呼 ばれ、テキストのこの部分がコード化されていて、そのコードが「持続可能な環境」であることを意味しま す。コーディングセクションの幅はあまり広くないので、比較的長いコード名ではその最初の部分だけが 表示されます。文書ブラウザの区分線を右へ引くとコーディングセクションを広げることができます。ポ スト・イットのアイコンはここにメモが付箋されていることを示します。

**メモとは何でしょう。**メモは自分の覚書や記録を作成するためにあります。そしてポストイットのステッカ ーのようにテキストの一部、テキスト、文書グループ、画像、オーディオやビデオのクリップに、そしても ちろんコードにも付けることが可能です。.

あなたが最初のテキストを文書ブラウザで開くとしましょう。その場合、テキストの横の欄はまだ空白 です。コーディングやメモをまだ作成していないからです。試しに自分でメモを作成することができます。 メモ欄をダブルクリックするとダイアログボックスが開きますから、試してみてください。メモについては後 ほどまた詳しく説明します。ここでは一旦ボックスを閉じてください。

コーディングをデータの右側に表示して、列の全体をテキストの後に移すことも可能です。列の頭を左 マウスを押したまま右に引いてドロップしてください。右か左かは好みにより、機能的な差はありません。

文書ブラウザのウィンドウの上方のツールバーには、よく使われる機能のアイコンがあります。

拡大 る	す	元の <sup>-</sup> イズ	ታ	文書  刷す	を印 <sup>-</sup> る	ウィン   の検 	·ドウ 索	内
e e	100				2	, G		×
	縮小る	す	編集 一ド	Ŧ	表示 書をコ トする	されたゞ ニクスポ	ζ 	

PDF ファイルをインポートして文書ブラウザで開いたとしましょう。この場合、ウィンドウの設定が変わります。DOC ファイルや RTF(リッチテキスト)ファイルの場合とは異なり、追加のアイコンによってページ 単位で PDF ファイルを前後にめくることができます。



リサーチの段階で次に続く作業のために、段落番号のついたテキストをプリントすることがあります。 それにはツールバーの[文書を印刷する]を選択するか、またはキーボード・ショートカットの Ctrl+P (Windows の場合)、または cmd+P (Mac の場合)で操作します。印刷メニューではプリントのレイアウトを 設定することが可能です。



## データを検索する

調査段階の作業には文書内の一定の単語を検索することも含まれます。MAXQDA では 4 つのすべ てのウィンドウの各域内での検索が可能です。つまり、検索は該当するウィンドウ内で実行されます。 各ウィンドウの上方のツールバーにそのための虫眼鏡のアイコンがあります。この虫眼鏡をクリックして 検索語を入力することができます。MAXQDA はその言葉が何度使われているかを表示します。矢印キ ーを上下させて検索結果を見ることができます。

各領域内での[語彙検索]に比べてよりパワフルなツールは [分析]タブまたは標準ツールバーの虫眼 鏡アイコンから検索する[語彙検索]です。語彙検索によって、開かれた文書内のみならず、多様な文書 内を同時に検索することが可能です。

文字列の検索 家族	索アイテムを削除す	全てを消去する	<ul> <li>○ 文書の中</li> <li>○ メモの中</li> </ul>
新規のエント	- IJ —		<ul> <li>または(OR)</li> <li>・ かつ (AND)</li> <li>・ 検索範囲</li> <li>1</li> <li>・ 段落</li> </ul>
			<ul> <li>語彙の全体のみを検索</li> <li>大文字と小文字を区別する</li> <li>見出し語リストの語を含める Bulgarian </li> </ul>
			アクティブ化された文書内でのみ検索 検索済セグメントの範囲のみで検索
0	開く	保存する	検索の実行 キャンセルする

例えば、このように検索語として「家族」が入力されると、すべての文書内が検索されます。

ウィンドウを開くとすぐに、同時に検索したい検索語を入力することができます。一つでも多数でも可能 です。リターンキーを使用してエントリを終了するか、新しい検索文字列を追加します。基本的には検索 語は OR 検索によります。つまりいずれの検索語が見つかった場合でも、ヒットとして表示されます。検 索結果の一覧はすべてのヒットを表示します。あなたがヒットの一つをクリックすると、該当する部分が 文書ブラウザに表示されます。

#### 色彩コーディングとメモ

あなたがまだカテゴリー分類について経験がなく、分析のプロセスがどのようなものか想像できないに しても、テキストの一部をマーキングしたり、コメントや仮説や発展性のあるアイデアを書き記すことの必 要性を感じることはあるはずです。専門書を読み解くとき、鉛筆を手にして重要な箇所をマーキングした くなる経験は誰にもあります。自分で何か書き込みたいけれど本の余白のスペースが十分でないときに は、ポスト・イットをその頁に付けて、そこに質問や考察を書きこむはずです。同じようなことが MAXQDA でも可能です。色彩コーディングの機能には 5 色のマーカーが備わっています(赤、青、緑、黄、赤紫)。 それらによって文書セグメントをマーキングすることができます。[色彩コーディングボタン]は文書ブラウ ザの上部にあります。

テキストの一部をマウスでマーキングして、この5つのアイコンの一つをクリックすると、この部分が色彩 マーキングされます。本の中のテキストの一部をマーキングするのとは違って、MAXQDA では色彩マー キングされた箇所を見つけるのが容易です。それに比べて下線を引いた部分を本の中で見つけ出すの には時間を要します。5 色の中からどの色を選ぶかはもちろんあなたの自由です。色彩コーディングで 作成されたコードを検索する方法は、後述の[データを分析する]の説明にあります。

色彩コーディングは便利なツールです。テキストのセグメントを明確に意図的にコーディングする前に、 重要な要素をマーキングできます。別の可能性としてはメモがあります。いわゆる文書内メモによって、 文書の一部を自由に選んでメモを添付することができます。文書の左横のグレーのメモ欄をダブルクリ ックすると新規のメモが作成されます。そこにはあなたのアイデアを自由に書き留めることができます。

#### データをインポートして検討する



メモにはタイトルを付けることができ、メモのタイプの適切なアイコンを割り当て、コードにリンクすることもできます。

この色彩コーディングの例のように、MAXQDA では、一度書いたメモを再び見つけるのは簡単です。 MAXQDA ではすべてのメモへのアクセスが[メモの一覧表示](この機能はメインメニューの[レポート]タ ブにあります)によって可能です。例えば、一定の期間に作成したメモ、または特定のタイトルの付いた メモなどによって検索できます。また、[語彙検索]を使うことにより、メモのテキスト内のある単語(または 組み合わせ)を検索することが可能で、検索によって見つかったメモを一覧表で見ることができます。

このようにメモは単に後で見つけるのが難しい覚書のようではなく、第一にポスト・イットのアイコンに よって目立ち、第二には高度の検索機能によって検索が迅速に進みます。

データのセグメントをコーディングする

# データをコーディングする

#### データのセグメントをコーディングする

先に述べたように、ほとんどの分析方法の要ともいえるのは、いわゆるデータのコーディングです。そ れにしても、これは正確には何を意味するのでしょうか。素材データの一部、つまりテキストの一定の箇 所、または画像の一部などをマウスで選択し(これは Word や別のプログラムと同じです)、このセグメン トにコードの一つを割り当てます。これは基本的には内容にタグ付けする、または見出しを付けることを 意味します。しかしながら、経験的社会調査におけるコーディングは単なる見出しを付けること以上に重 要な意味を持ちます。

ではコードとは何でしょう。すぐに思い浮かぶのは、スパイとその暗号機や解読機、またはモールス符 号のように明確に規定されたコードです。しかし、これらの連想は的を外れています。質的分析研究で はコードは一種のラベルといえます。ラベルはあるテキスト(または画像)の中の現象を名付けるもので す。技術的にはコードは MAXQDA で最長 63 からなる文字列からなり、それらは一つの言葉、または多 数の言葉からなりますが、すぐには理解のできない「CR128」や「LH454」といった文字列を使うこともでき ます。社会調査の研究プロセスにおいてコードは様々な意味と多様な機能を持ちます。そのため、例え ば事実に関するコード、テーマによるコード、理論的なコードなどの区別がなされます(参照:Kuckartz 2016、Richards 2014)。コードを見ただけでは、それが具体的な研究プロジェクトで末梢的な意味を持つ 暫定的なものか、あるいは該当するプロジェクトにおいて重要な役割を果たすカテゴリーであるかを判 断することはできません。それらはコンテキストやコードのフレーミングによって初めて解明されます。 コードはどのように作成されるのでしょう。コードシステムウィンドウの[コードシステム]を右クリックして、 コンテキストメニューのオプション[新規のコードを挿入する]を選択してください。同様に、[コードシステ ム]ウィンドウ上方のツールバーの該当するアイコンを選択することもできます。

🤕 コードシステム	Ċ	🙂 🔳	<b>€</b>	ρ	C 4	X	ツールバーの真ん中あたりで、左から6つ目に新
培						¢	規のコードを挿入するためのアイコンがあります。
◎──ニードシステム						0	その横にある虫眼鏡は特定のコードを検索する
• 📜 セット						0	ためのアイコンです。

### 新規のコードを定義するためのダイアログボックスが開きます。

コード 家族	で是初のコードを冬付け
色	
<ul> <li>新規のコードに初期設定の色として使う</li> <li>親コードをの色を用いる</li> </ul>	ある色を割り当て
コードメモ	
	ここにこのコードの意味や、割り当て た時期などを書き留めたコードメモを 記入します
<b>う</b> OK 規のコードの追 キャンセルする	

コードをある文書の特定のセグメントに割り当てるには、まずその箇所をマウスで選択します(段落番号 をクリックすると段落の全体がマーキングされます)。そしてそのテキストセグメントを左マウスでクリック したままコードにドラッグ&ドロップするか、またはコードを左マウスでクリックしたままマーキングしたテ キストセグメントにドラッグ&ドロップします。コーディングに成功するとコードシステムのコードに[0]の代 わりに[1]が表記されます。コードシステムの数字は、プロジェクトでコードがいくつ作成されたかを示し ます。文書システムでも各文書に割り当てられたコーディングの数を示します。MAXQDA ではコーディ ングの可能性が他にもいくつかあります。文書内の選択された箇所を右クリックするか、文書ブラウザ の上部にあるコーディングのツールバーでも可能です。ツールバーは下の図のようなものです。



左端の小さなウィンドウには必ず、最近使われたコードが表示されます。その右横の赤いコーディング・ アイコンをクリックすると、このコードがマーキングしたテキストセグメントに割り当てられます。ツールバ ーにはその他のアイコンもあり、例えば作成したコーディングを取り消すことができます。[コーディング を取り消す]のアイコンをクリックすると、最近実行されたコードの一覧表が開きます。この一覧表の一つ をクリックするとそのコードが取り消されます。 文書ブラウザのコンテキストメニューにもコーディングのオプションがいくつかあります。テキストのセグメントをマーキングして、マウスを右クリックすると、いくつかのオプションが表示されます。

コードを作成して割り当てます。	コーディングする					
	✿ 新規のコードで	<b>₩</b> ₩				
最近使われたコードでコーディングします。	🔅 インビボ	いまン				
	●  「気候変動」で	€₩L				
全てのアクティブたコードを割り当てます	<ul> <li>アクティブ化されたコードで</li> </ul>					
	🐻 選択されたセグメントにメモを挿入する	℃企M				
	🔎 ハイライトされたテキストの検索					
このセクションに割り当てられたコードの一覧表示。	<ul> <li>割り当てられたコードをリストアップする</li> </ul>	5				

# データを分析する

#### 文書をアクティブ化する

語彙検索のダイアログボックスで[アクティブ化された文書のみ]という選択項目を見て、[アクティブ化 された文書]が何を意味するかをあなたは疑問に思われたかもしれません。[アクティブ化する]は MAXQDA の中心的なコンセプトです。これはあなたが文書(およびコード)を次につながる分析機能のた めに選択して、選択したそのアイテムだけを対象にして作業することを可能にします。アクティブ化はど のように機能するのでしょう。これはとても簡単です。各文書と各文書グループのコンテキストメニュー の一番上にオプション[アクティブ化する]があります。MAXQDAによる作業で経験のある方ならば、単に 文書名の左側にあるグレーの丸印をクリックすればアクティブ化できることをご存じでしょう。あるいはシ ョートカットキーでアクティブ化を行うこともできます。Ctrl(Windows)、または cmd(Mac)キーを押さえたま ま、左マウスで希望の文書や文書グループをクリックしてください。

▼ ● こインタビューニューヨーク	19	▼ ● 💼 インタビューニューヨーク	19
●   千夏	3	→ 三 千夏	3
■ 七海	10	● 📄 七海	10
● ■ 和実	6	● ■ 和実	6

文書がアクティブ化されているかどうかは、文書システムのウィンドウのアイコンで分かります。文書名の左側のグレーの丸印は、文書がアクティブ化されると赤い小さな矢印の表示になります。最下部の MAXQDAのステータスバーの一番左には、文書がいくつアクティブ化されているかが常に表示されます。 検索を1個、または数個の文書に制限する場合は、それらをまずアクティブ化した上で、語彙検索のダ イアログボックスのオプションで[アクティブ化された文書のみ]を選択します。



アクティブ化された文書をもとに戻すのは簡単です。文書システムのウィンドウのツールバーの左端の[アクティブ化を元に戻す]のアイコンをクリックしてください。あるいは、Ctrl(Windows)か cmd(Mac)キーを押さえたまま、マウスで該当する文書か文書グループをクリックしてください。文書名の左側の赤い矢印をクリックすることでもアクティブ化を解除できます。

#### 同一のコードでコード付セグメントを読み出す

言うまでもなく、分析はコーディングがすべてではなく、コーディング以外の作業も重要な意味を持って います。作業がある程度進んだ段階では、それまでのコーディング作業の結果について確認してみたく なることもあるでしょう。これについて最も単純な例は、特定のコードを割り当てられたセグメントのすべ てを抽出して見るという方法です。インタビュー調査においては例えば、あるテーマについてどのような 発言があり、だれがそれを言っているかという点について確認したくなることでしょう。そのためのキーワ ードは[検索]で、これはコード付セグメントを再び見つける、または読み出すということを意味します。語 彙検索の場合に似て、MAXQDA ではこのようなコーディングクエリはアクティブ化の方法によって機能 します。

[コーディングクエリ]のためには、まず関連するすべての文書をアクティブ化してください。コードが割り 当てられたセグメントに関心がある場合はそのコードも同様にアクティブ化してください。どのように文書 をアクティブ化するかはすでに説明しました。コードについても同様です。コードをマウスで右クリックし て、オプション[アクティブ化]を選択するか、または Ctrl(Windows)、または cmd(Mac)キーを押さえたまま、 左マウスでコーディングクエリに含むべき全てのコードをクリックしてください。検索の結果、つまり検索 されたコード付セグメントは MAXQDA の 4 つ目のメインウィンドウの[検索済セグメント]に表示されます。 テキストの左側のボックスには、セグメントの出処についての情報があります。図の最初のセグメントは 文書グループ「インタビューニューヨーク」の「七海」の段落 2 に由来します。



インフォボックスは右横のセグメントが由来する文書についての情報を表示するばかりではなく、オリジ ナルのテキスト箇所に移行するのを可能にします。インフォボックスをクリックすると、[文書ブラウザ]に 該当する原文が読み込まれます。文書のコーディングされた箇所が開かれ、より広い領域の文脈内で の理解を可能にします。

#### 図解ツールを活用する

MAXQDA の最も大きな特徴の一つは調査結果の視覚化です。そのためこのクイックスタートガイドで もご紹介します。MAXQDA の視覚化には様々な可能性があります。まず第一にコードと文書のそれぞ れに色を割り当てることができます。色別の割り当てはデータの組織化と視覚化に重宝する機能です。 そればかりではなく、それぞれの色に対して内容に伴った意味をもたせることもできます。

MAXQDA は絵文字シンボルのコードを使うことができる最初の質的データ分析ソフトです。今ではショ ートメッセージやスマートフォンのメッセージでこれらのシンボルがふんだんに使われるようになりました が、とりわけ言語の理解に困難の伴う国際的なプロジェクトにとっては、このような絵文字を使ったコー ドはとりわけ便利です。 視覚化はまた、理解が容易な新しい形式でデータ間の関連を表示します。最も頻繁に使われる図解 ツールは[コードマトリックスブラウザ]です。[図解ツール]から図解ツールを開くことができます。



#### コードマトリックスブラウザは何を表示するのでしょう?

	123	#		# "π Σ	C	🖸 🔀 📑	0
コードシステム	千夏	七海	和実	克己 郁也 -	東京		
<ul> <li>エネルギー政策基本法</li> </ul>			-				
◎ 教育							
▼ ○ 気候変動		-					
◎ カルチャー							
◎ 行動主義							
◎ 責任							

各列は各文書を示しています。この例は気候変動に関するある研究プロジェクトのインタビューです。コ ードがアクティブ化されて様々なテーマを表示しています。この例からは、責任についてはインタビュー 対象者のうち二人が、教育、行動主義については一人が取り上げており、またカルチャーについては一 人も語っていないのが分かります。

# 混合研究法による分析を実行する

## 文書変数を定義する

混合研究法によるアプローチのサポートは MAXQDA の最も大きな特徴の一つです。それによって量 的データと質的データを結び合わせることが可能になります。文書システムの各文書は、[変数]によっ て統計ソフトを使うように管理することができます。例えば個人的なデータと背景の情報とを変数、また は変数値として記録し、混合技法による分析のために使うことができます。[変数]タブのプルダウンメニ ューに[文書変数の一覧表示]のオプションがあります。これは次のダイアログボックスで開くことができ ます。

データ編集に変	新規の変数を作成す	వ							
文書属性の一覧表 6 属性									
T P P 🚽 📫 🧮 🛉	11 ABC II			5	8 🗈 🕨				
属性	属性タイプ	表示されている	ソース 🌷	行方不明の属性	カテゴリカル				
■ 文書グループ	テキスト		システム						
■ 文書名	テキスト		システム						
■ 作成日	日付/時間		システム						
■ コード付セグメントの数	整数		システム						
■ メモの数	整数		システム						
■ 作成者	テキスト		システム						

プロジェクトを最初に開いたとき、いくつかの変数がすでに定義されていることに気付かれるかもしれま せん。これらはいわゆる「システム変数」で、それらの値は MAXQDA によって自動的に定義されていて 変更できないようになっています。[新規の変数]のアイコンをクリックすると最初の変数を定義すること ができます。通常、変数には「テキスト」タイプの変数(例えば職業名で教師、または学生など)、または整 数(これは例えば年齢など、変数値が整数である場合)を使用することになるでしょう。新規の変数を定 義することはいつでもできます。

## 変数値を入力する

文書の変数値を入力するには、[文書変数の一覧表]のウィンドウの上方のツールバーにある[データ 編集]で編集することが必要です。

			ツールバーに [変数の一覧表	は頻繁に 長に戻る]な	使われ などです	,る機能があります。例えば す。
編集	- 全文書			12 3	文書	
	T 🎙 🔎 🚽		🛓 🔯 🖾	<b>•</b>	0	各列の見出しをクリックするとこの変数に従って並び
	文書グループ	生年	文書名	•		皆えられより。
	インタビュー東京	1987 🔸	克己			 ーマンをダブルクリックすると変数値が入力できます。
	インタビューニューヨーク		千夏			
	インタビュー東京		Unicef - 気候変動			
	インタビューニューヨーク		七海			
	インタビュー東京		裕次			
	インタビューニューヨーク		和実			

文書変数の一覧表は Excel 形式のファイルにエクスポートすることができます。それによって SPSS や Stata のような統計ソフトで作業を続け、統計分析を実行することができます。

## コードの頻度を変数に変換する

あるコードが異なる文書に割り当てられている頻度は、変数に変換することができます。その変数はコ ード名を持ちます。右マウスで希望のコードを右クリックして、コンテキストメニューの[文書変数に変換 する]を選択してください。ここではコード「ポジティブ」が変換されます。



## 分析における文書変数

量的データと質的データは多様な方法で結び付けることができます。その最も簡単な方法は、文書変数を選択の基準としてコーディング検索に使うことです。それによって、例えば社会統計的な特徴の比較をすることが可能です(例えば「50歳以上の女性の参加者がテーマXについてどんな発言をしているか」など)。選択は[混合研究法]タブの[文書変数によってアクティブ化する]によって実行できます。ダイアログボックスでは左の部分で変数を見つけてからウィンドウの真ん中の矢印をクリックし、右側で適用する変数値を選びます(ここでは男性)。[アクティブ化する]をクリックすると適用する論理的条件が決定され、男性のインタビュー対象者が文書システムの中でアクティブ化されます。

属性	条件式 謽 🗙 🏙 🗎	
文書グループ 文書名 作成日	[生年] > <空>	・または(OR) Book title
1- K H H H H H H H H H H H H H H H H H H		○ = (イコール) ○ < (小なり)
生牛	<b>.</b>	<ul> <li>≤ (小なりイコール)</li> <li>&gt; (大なり)</li> <li>≥ (大なりイコール)</li> </ul>
		○ ≠ (ノットイ ユール) ○ ∋ (に属する)
		変数値
		1985
全ての属性値を条件として挿入する		🗌 セットをアクティブ化して作成する
0		<b>・</b> クティブ化す: キャンセルする

# またお会いしましょう

MAXQDA の最も重要な特徴について紹介したこのクイックスタートガイドが、皆様の MAXQDA へのア プローチのお役に立ったことを期待します。MAXQDA にはその他にも例えば次のような多様な機能や 使い方があります。

- 音声・動画ファイルの文字起こしをする
- ツイッターファイルをインポートして分析する
- フォーカスグループを分析する
- データを視覚化する
- レポートを作成する
- 質的内容分析を実行する
- その他

MAXQDA のウェブサイト www.maxqda.com では、MAXQDA のその他の機能の数々が詳しく説明されています。

#### 参考文献



- Charmaz, Kathy (2014). *Constructing Grounded Theory*. 2. edition, San Francisco: SAGE Publications.
- Corbin, Juliet; Strauss, Anselm (2015). *Basics of Qualitative Research. Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory.* 4. edition, San Francisco: SAGE Publications.
- Kuckartz, Udo (2016). *Qualitative Inhaltsanalyse. Methoden, Praxis, Computerunterstützung.* 2. Aufl., Weinheim: Beltz Juventa.
- Kuckartz, Udo (2014). *Mixed Methods. Methodologie, Forschungsdesigns und Analyseverfahren.* Wiesbaden: Springer VS.
- Kuckartz, Udo; Dresing, Thorsten; Rädiker, Stefan; Stefer, Claus (2008). *Qualitative Evaluation. Der Einstieg in die Praxis.* 2. Aufl., Wiesbaden: VS Verlag für Sozialwissenschaften.
- Richards, Lyn (2014). *Handling Qualitative Data. A Practical Guide.* 3. edition, London: SAGE Publications.

# MAXQDA無料体験 フル機能を備えたデモ版 www.maxqda.com



/MAXQDA



@MAXQDA



@VerbiSoftware



Software – Consult – Sozialforschung GmbH